

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790500045		
法人名	医療法人社団 博英会		
事業所名	ニコニコグループホーム		
所在地	福島県白河市鶴巻山40		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を管理者と職員は理解し、理念をもとに利用者一人ひとりがその人らしく地域のなかで暮らせるよう日々のケアに取り組んでいる。
一人ひとりの個性を尊重し、その人の思いを把握し悩みを受け止め真摯に向き合いながら、持っている力を活かし、思いが叶えられるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットに掲示している。朝礼時に声を出して読んでいる。	理念をもとに、地域の方と多く接する機会を作れるようにしたいと考えている。一人ひとりの性格や生活状況を把握し、その人が取り組めることや、その人の思いにどう応えられるかを考えながら、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物などの外出行事を計画するも、体調不良や天候に左右され実施に至っていない。	法人の本部と連絡を取りながら、ボランティアなどの地域資源の活用を考えている。近くの保育園児が訪ねてきて、遊戯を披露してくれている。あんしんメイトの方が行事に参加し、食事や体操を利用者と職員が一緒にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市のあんしんメイト養成講座の実習受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、意見を聞いてサービス向上に努めている。	利用者や事業所の状況を報告したり、感染症について話し合い、意見交換が行われている。会議を通して、地域や家族の意見や外部の情報を得て、どのような考えでいるかを知り、ケアに活かしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点、確認事項などがあれば担当者へ連絡をしている。また、定期的に介護相談員が来所され、利用者の相談を聞いている。	利用者や事業所の状況などを報告している。市から、その時々ケアや利用者の健康に関する情報を電子メール等で貰っている。市から、事業所と協力関係を築こうとする姿勢が見られないと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見える拘束、見えない拘束(言葉等)を含め、身体拘束はしないよう努めているが、危険防止という解釈の下で階段の入り口には施錠をしている。	身体拘束は基本的にしないとされている。契約時に、方針を伝えている。勉強会を開き、拘束のないケアに取り組んでいる。ことばの拘束について気付いたときは、ミーティングや申し送りで職員で共有しケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に開催されている法人の勉強会に参加し、事業所内でも勉強会を開催することで、身体拘束廃止・転倒予防・虐待予防について話し合いを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その必要性の高い利用者については、包括支援センターなどへ相談することになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族側の立場になり、できるだけわかりやすく説明し、納得いただいた上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡で、利用者や家族とコミュニケーションを取り、意見や要望を聞き、その都度対応している。	家族の訪問時に、利用者の生活状況を話し、意見や要望をもらえるようにしている。とろみ食にしてもらったことで、呑み込みがよくなっていると感謝の言葉をもらっている。ホールで利用者・家族と職員と一緒に思いや気付いた事を話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで現状を報告し、課題・対策等職員同士で検討して意見交換を行ない、業務に反映させている。	ミーティングや申し送り時に、利用者が外に出る機会を作りたいと意見があり、そのひとに会ったケアができるようにしている。研修会や前向きに資格取得を考えている職員には、勤務体制を調整して参加してもらえるようにし、ケアの質の向上に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、職員の働きやすい環境が整えられるよう、法人の親睦会などに参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修だけでなく法人内研修にも定期的に参加している。また、個別面談を実施し、各自が抱えている悩みを聞き、改善に向けたアドバイスを提供できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症グループホーム協議会などでの研修、市主催の介護相談員との勉強会等への参加が、同業者との交流の場となり、情報を得る機会になっている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学に来ていただき、不安な点や困っていることを伺い、十分に説明、話をして、できるだけ不安が残らないように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安な点や困っていることを伺い、できるだけ不安が残らないよう十分に説明させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が希望していることや必要性の高いことをできるだけ取り入れ、状況に変化があった場合には柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人できることは行なっていただきながら、共に生活することを意識している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取りながら、本人の状態に合わせて面会や外出などの協力を得ることで、共に利用者を支えていくことを意識して実践している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて馴染みの物を持ち込んでもらうなどして、少しでも馴染み空間ができるように配慮している。外出については、今後支援を行なっていきたい。	入居前の実態調査で、その人の仕事歴や人間関係を把握するようにしている。家族・友人知人が訪ねてきてくれている。家族から、法事やお祝い事などに参加してほしいと要望があれば、準備して対応するようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人の時間も確保しながら、職員も間に入りかわりを持てるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、いつでも相談に応じることができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに寄り添い、その人の立場となって考えるよう努めている。	利用者の行動や表情から、気付いたことをミーティングし記録に残し、職員全体で共有しケアに活かせるようにしている。本人の話を真摯に聞き、自然な生活の中で好きなことやできることをしてもらいたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境を把握し、できるだけそれに近い生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心身の状態把握に努め、スタッフ間で情報を共有し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時や毎日の生活の中で情報交換をしている。家族とも面会時の会話や電話連絡を取り、必要な対応について検討を行なっている。	利用者一人ひとりのその人の持っている能力活かしてできることは何かを考え個別の具体的な介護計画を作成している。状態変化時には、医師や看護師から意見をもらい見直しをし、家族の了解を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態の変化、気付いたことを個別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を尊重し、柔軟に対応できるようにスタッフで話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出した際に地域資源の活用を検討したり、月に1度、市内の理美容の方に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重して受診の対応をしている。必要があれば、医療機関に対して書面で利用状況を伝えるなどしている。	入居時に、医療機関の受診について説明し、本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。受診は家族対応となっているが、職員が代行することもある。受診結果は、家族に伝え情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師、及び訪問看護師と常に連携を取って情報を共有し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、家族や病院との連携を取り、情報の共有や相談できる関係が作れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族には、終末期の対応について、病状に合わせて説明を行なっている。適切な支援ができるよう、状態の変化に伴い、家族、医療機関と話し合いを行うこととしている。	入居時に、重度化や終末期について事業所としてできることを説明している。身体状況が変化したときは、家族の理解と協力のもと、医師と連携しながら対応するようにしている。職員は、悔いのない振り返りができるよう、ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡、対応についてはマニュアル化している。全スタッフが対応できるよう、マニュアルの確認が必要と思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を実施している。	訓練の後、消防署から火災発生時には避難に時間がかかることやエレベーターの使用はしないようにとのアドバイスをもらっている。職員は、避難マニュアルを理解し、年間を通して全職員が訓練に参加できるようにしている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に合わせた声かけを意識し、その方に応じた対応を行なっている。	ミーティングや法人の研修会で、尊重やプライバシーの確保について学んでいる。悩みを抱えやすい方に、さりげなく普段通りの声かけを心掛けるなど、その人に合った寄り添い方をしている。尊重しなくてもなれなくならないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人に合った声かけ、説明を行ない、利用者が自分の事を決められるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、1人1人のペースに合わせて行動ができるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備等は職員が行っている場合もあるが、本人に決定してもらえるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けなど、利用者の能力に応じ、できることは協力していただいている。	家族や友人から頂いた野菜を、メニューに加え季節を感じてもらえるようにしている。とろみをつけたり刻み食にするなど、その人の食べる力に合わせて調理している。行事の時に、あんこやきなこもちなどを食べて喜んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の身体状態を把握した上で、摂取量や水分量を記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、定期的に偽気洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにおむつにはせず、排泄パターンを把握するように努めている。日中は定期的に声かけし、早めのトイレ誘導をしている。必要に応じてポータブルトイレの使用も支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況に合わせて必要な支援をし、トイレで排泄できるようにしている。本人のおむつの吸収量に合わせて、トイレ誘導している。失敗しても、さりげなく周囲に気づかれず対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしている。便秘の方には水分を多めに摂っていただいたり、腹部マッサージを行っている。その人に合った食品（ヨーグルト、ブルーベリー等）での対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の予定は立てているが、本人の希望に沿って入浴をしている。また、好みの入浴剤を選んでいる。	日時や時間を調整して、一緒に入浴したい方や介助してくれる職員を、希望に合わせて、入浴してもらっている。嫌がる人には、職員を変えたり、声掛けを工夫したり入浴日を変えるなどしている。脱衣所と浴室の温度差をなくし、体の負担を軽減するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況により、疲れやすい方には日中も休んでいただいている。夜間も安眠していただけるよう、日中に体操等を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず薬の説明書に目を通すようにしている。全職員が把握できるよう、処方後は用法、副作用について確認を行なって申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き窓、台拭きなど普段の生活で利用者に役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を立ててはいるが、体調不良や天候不良で中止となってしまう。今後も、散歩や買い物等を通して対応していきたい。	暖かい日には、事業所周辺を散歩するようにしている。利用者の身体状況に合わせて、車いす対応や歩行の状態を考慮し、外に出る機会を多くしている。家族の方と、外食に出かける方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳にて管理し、外出時等必要に応じて使えるよう支援している。自分で管理できる利用者であれば管理していただき、定期的に残金の確認を行なうこととしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった場合や、本人から訴えがあった場合に対応している。手紙等は本人に手渡し、必要に応じて代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔さを心がけている。敷地内に植木や花が植えてあるので、散歩の際に季節を感じていただいている。	歩行の妨げにならないよう床には、物を置かないようにしている。トイレの場所がわかるよう、大きな矢印を各所に貼付している。感染症対策で、温度・湿度を管理し、定期的な換気を行っている。来訪者には消毒・マスクをしてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで他利用者とコミュニケーションを取ったり、各個人で職員付き添いのもと散歩へ出かけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	全員ではないが、布団や自宅で使用していた愛着のある物の持ち込みをしていただいている。本人の状態に合わせ、居室内の物の配置をしている。	居室が分かるように入口に、職員手作りの作品を飾っている。ベッドを、身体状況に合わせて配置するなど、居心地よく過ごせるような部屋作りをしてもらっている。掃除は、できる方は職員と一緒にやっている。衣替えは、家族の方が中心に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは目の届く所へは置かず、トイレ等はわかりやすく1人でも行けるようにしている。		